

生活単元学習指導案

情緒障害特別支援学級

3名(男子3名)

知的障害特別支援学級

2名(男子2名)

指導者 吐師 陽一(T1)

秋田 護(T2)

1 単元名 みんながよろこぶ あすはばカレンダーをつくって、うろう

2 単元について

(1) 単元の価値

本学級の子どもたちは、明るく、元気があり、特に学習の見通しをもつことで、意欲的、主体的に活動に取り組むことができる。また友達とかかわることができる活動を特に好んでいる。表現する活動の面では、休み時間、自分のかきたい絵を描いたり、絵物語をかき上げたりする様子が見られる。しかし、表現する方法は色鉛筆やクレヨンを使ったお絵かきを中心で、それ以外の表現の経験があまりなく、表現する様々な楽しさを十分に味わっていない面がある。人とかかわりの面では、あいさつなど決まった場面での周りの人との簡単なやりとりについて、それぞれの発達段階に応じた適切な内容を話し、伝えることができるようになってきている。これからも、設定された場面で決まった内容をやりとりする活動を行い、子ども自身ができたと感じる成功経験を更に増やし、周りの人との簡単なやりとりに対する意欲を高め、その方法を身に付けていく必要がある。金銭の取り扱いについては、お店での買い物学習や家庭での生活経験などを通して、お金を支払い、その代わりに品物を受け取りという基本のお金の働きや意味を理解している。あすなる学級の子どもたちについては、どのお金でどれだけ払えばいいのかといったお金の支払いに関する内容がまだ十分定着しているとはいえない面がある。また、はばたき学級の子どもたちについては、金額の計算に自信がない子どもや、計算は確実にできるので今後、どれだけ使ったかといった記録を付けていく必要がある子どもなど、それぞれ課題をもっている。

そこで本単元では、「カレンダーづくり」を学習に取り入れることで、昨年までの活動を生かして、見通しをもって主体的に活動できるようにする。そして自分の気持ちや考えを基にいくつかの技法を使って、月ごとのカレンダーの絵を自由に表現する楽しさを味わい、学習に意欲的に取り組むことができるようにする。その後、作ったカレンダーを売ったり、買ったりする活動の中で、お金のやりとりをしたり、客やお店の人との会話のやりとりをしたりする活動を通して、「あいさつ」、「質問への返事」、「相手に簡単な用件や希望を伝えること」ができるようにする。そして、お金を大切に扱い、簡単な金額の品物について、正しく支払いをしたり、計算したり、記録したりすることができるようにする。また、これらの活動を通して、友達と一緒に協力して活動することの楽しさを味わうことができるようにする。

指導に当たっては、単元の導入でこれまでの学習を写真やVTRで振り返り、カレンダーづくりの計画を立てることで、活動への見通しをもち、主体的、意欲的に取り組むことができるようにする。カレンダーの絵については、これまでまだ子どもが経験していないコラージュやこすりだしなどの表現技法を実際に体験させることで、様々な表現活動の楽しさに気づき、味わうことができるようにする。さらに、カレンダーのお店の装飾や宣伝ポスターづくりの活動も取り入れ、表現する楽しさをより多く味わわせるとともに、成就感、達成感を感じることができるようになる。次に、カレンダーを売ったり買ったりする活動の際には、それぞれ店員役と買い物客役に分かれ、お互いに協力して取り組んでいくようにすることで、友達と楽しみながら学習を進めていくことができるようにする。またそれぞれの役割において、どの場面でもどのような言葉をやりとりすればよいか分かるように掲示したり、ワークシートにまとめたりして、活動中いつでも振り返ることができるようにする。なお、やりとりの言葉を精選したり、カレンダーの金額を子どもの実態に合わせて、支払いを100円硬貨のみで行えるようにしたり、電卓を用いて、計算が苦手な子どもも確実に計算できるようにしたりするなどして、子どもが自信をもって活動に取り組む、めあてを達成することができるようにする。また、活動の進め方やお金の計算の仕方、金額の記録を書き入れ、まとめることができる「あすはば屋ノート」をそれぞれの課題に合わせて準備し、活用していくようにする。そして、買い物を通して、人とのやりとりや、お金の取り扱い方についての活動を繰り返し、その度に教師の手立てを意図的に少しずつ減らしながら学習を進めていき、子どもが自身でできることが少しずつ増えていくようにする。

このような学習を通して、人と楽しみながらかかわっていく経験を積むとともに、「学び」を生かして、家庭での取組を喚起することで、周囲の人といっしょに余暇を楽しもうとする態度を養い、生活に生かしていくことができると考える。また、自分が頑張ったカレンダーを、みんなで作ったお店で働いて、売ることができたという喜びや達成感、子どもの自己評価を高め、もっと頑張ろう、もっとできるようになりたいという、これからの生活単元学習への意欲へとつながり、それが、子どもの生活を更に楽しく豊かにしていくことになると考える。

(2) 単元の目標

「あすはばカレンダーづくり」に見通しをもち、いろいろな技法で季節の絵をつくりあげたり、作ったカレンダーを売り買したりする活動を主体的に楽しもうとする。

準備したいいくつかの画材や技法の中から、自分の好きな方法を選び、カレンダーの絵をつくりあげることができる。

カレンダーを売り買する活動を通して、「あいさつをする」、「相手の質問に答える」、「相手に簡単な用件や希望を伝える」などのやりとりができる。

お金を大切に扱い、計算、準備がしやすい金額の品物について、支払いをしたり、計算したり、記録したりすることができる。
 カレンダーをついたり、売り買いしたりする活動を友達と協力して楽しみながら行うことができる。

(3) 子どもの実態 (単元に関する実態)

A 児 3 年 あ す な る	教育的ニーズ 周りの友達とかかわりながら活動することができる。 一人で買い物をすることができる。 余暇を楽しむための活動を見付けることができる。				
	単元の目標 友達と道具や材料などの貸し借りをしながら、協力して活動することができる。 店員との簡単な受け答えをして、買い物をし、買った物を持ち帰ることができる。 見本や作り方カードを見ながら、楽しんでカレンダーをつくることことができる。				
	関心・意欲・態度 ・実物や写真や絵で活動の見通しがもて、何をするか分かること、課題に最後まで取り組もうとするが、意欲を持続するために言葉掛けが必要である。	工作の技能 ・手先を使う細かい作業は苦手である。切ったり、はったりする際は場所を指示して、一緒に作業をする必要がある。	安全面 ・気持ちが冷静なときは、危ないことについて考え、安全に行動しようとする。しかし、慌てて、注意力が散漫になることがある。	国語に関連すること ・話をすることが大好きで、様々なことを自分から話したり、質問したりするが、話が一方的になることが多い。場に応じた受け答えには、教師の言葉掛けが必要である。	算数に関連すること ・お金の種類を理解することができる。100円単位の金額は100円硬貨で支払うことができるようになってきた。確実に支払うことができるように繰り返し練習する必要がある。
	WISC- の検査結果分析と支援の方向性 言葉での入力、処理が得意である。 簡潔な言葉で丁寧に説明することで、理解しやすくする。 聴覚的記憶は苦手だが、視覚的記憶は得意である。 言葉で説明した後、板書したり、写真や絵カードで示したりすることで、必要な情報を覚えることができるようにする。 細かい部分を見分けることや再現することが苦手である。 見通しをもたせる際は一目で分かる絵や写真を使うようにすることで、理解しやすくする。				
B 児 3 年 あ す な る	教育的ニーズ 他者とかかわりを大切にすることができる。 店に行き、生活に必要なものを買うことができる。 出来事や気持ちなどを絵に描いて表現する楽しさを味わうことができる。				
	単元の目標 使いたい道具を「貸して」と言って借りたり、「ありがとう」と言って返したりできる。 店員との簡単な受け答えをして、買い物ができる。 季節に合う内容を本などから探し、楽しみながら絵などの作品に表すことができる。				
	関心・意欲・態度 ・実物や写真や絵を掲示しておき、活動の見通しがもてると、落ち着いて活動し最後まで取り組もうとする。	工作の技能 ・折り紙や牛乳パックなどの身近な材料を使って動物を作ることが得意である。 ・休み時間に本を見ながら、自由帳などに絵を描くことが好きである。	安全面 ・初めて使う道具や、注意を促した道具を使う際には、教師に何度も確認する。教師と一緒に使うことができる。	国語に関連すること ・受け答えは短い言葉ですることができる。手順がある場合は繰り返し練習する必要がある。	算数に関連すること ・金額の大小を理解することができるが、二つ以上のお金の種類が混ざっている代金を支払う際は、教師の助言が必要である。
	WISC- の検査結果分析と支援の方向性 長期記憶は苦手であるが、視覚的入力を基に考えたり、判断したりすることが得意である。 視覚的情報を掲示することで、いつでも確認することができるようにする。 考えたり判断したりすることに時間がかかる。 情報を与えてからしばらく考える時間を与えるようにすることで、自分の力で考えることができるようにする。				
C 児 3 年 あ す な る	教育的ニーズ ルールや順番を守りながら、友達とかかわって活動することができる。 お店に行き、生活に必要なものを買うことができる。 身の回りの危険についての理解を深めることができる。				
	単元の目標 ルールを守りながら道具の貸し借りをすることができる。 買い物の手順を知り、お金を大切に扱って買い物をすることができる。 道具を安全に使って、作ったり描いたりすることを楽しむことができる。				

		関心・意欲・態度	工作の技能	安全面	国語に関連すること	算数に関連すること
C 児 3 年 あ す な る		・興味のある学習には積極的に取り組む。苦手な内容になると、取り組むまでに時間がかかるため、励ましながら取り組ませる必要がある。	・手先を使う細かい作業は苦手な時間がかかる。はさみを使って決められた形に切ったり、決められた場所にのりではったりする作業は支援を必要とする。	・活動に夢中になったり、感情が高ぶったりすると、道具の安全な使い方を忘れてしまうことがある。また、指示を最後まで聞かないうちに行動に移してしまうことがある。	・お店屋さんごっこなどでは、決められた言葉を大きな声で言うことができる。丁寧な言葉遣いができないことがあるため、言い方を練習する必要がある。	・大きな金額の大小や加減には抵抗がある。教師が言葉で指示した種類のお金を支払うことができる。数種類のお金を使って支払うことを苦手としている。
		WISC- の検査結果分析と支援の方向性 耳慣れない言葉や長い言葉による指示は理解が難しい。短い言葉による指示をすることで、理解しやすいようにする。 順を追って考えることが苦手である。 一つでこれをするということが分かる写真や絵、具体物を見せることで、自分なりに考えて行動することができるようにする。 これはよい、これはだめということが理解できていないことが多い。 理由を簡潔にして説明することで、良いこと悪いことがはっきり分かるようにする。				
D 児 4 年 は ば た き		教育的ニース よくある場面で、相手に失礼のないように会話することができる。 身の周りの物を使って、自分で楽しく表現、工作をすることができる。 自分のお金や、貴重品などを大切に扱うことができる。				
		単元の目標 見本や作り方カードを見ながら、身の周りの物を利用した簡単な画材などでカレンダーの絵を描き上げることができる。 買い物の時のお店の人や買い物客とのやりとりを、実際に自分で行うことができる。 カレンダーを介したお金のやりとりを通して、簡単な売買の仕方を理解し、お小遣い帳を付けるなど、生活の中に生かすことができる。				
		関心・意欲・態度	工作の技能	安全面	国語に関連すること	算数に関連すること
	・課題にもよるが実物や写真、絵で活動の見通しがもてると、進んで発表するなど意欲的に取り組もうとする。周りの友だちや教師と色々なかわりをもつことを好む。	・手先を使う細かい作業には時間がかかる。はさみを使って決められた形に切ったり、決められた場所にのりではったり、セロハンテープで強くとめたりする作業は支援があればできる。	・危険に対して大変敏感で、熱をもっていたり、刃物や先がとがったりといった明らかに危険な物については、自分からは触ろうとしない。しかし、危険を予想することが十分でない面もあるので、十分な注意が必要である。	・友だちとの会話で簡単なやりとりを行うことができる。簡単な質問に対しても、およそ的確に答えることができるが、たまに補足説明が必要な場合もある。言葉に出してしっかりと発表することは、よき身に付いている。	・当該学年までの学習内容は確実に身に付いてきている。金銭的な計算についても、加減の計算を正しく使って、必要なお金やお釣りを自分で計算して求めることができる。	
	WISC- の検査結果分析と支援の方向性 時間を追って、活動内容や手順を理解したり、これからの学習の進め方を考えたりすることを得意としている。 手順の説明を写真などを活用して掲示することで、しっかりと見通しをもつことができるようにする。 言語による指示については、注意不足のために内容を理解し損なうところがある。 言葉を掛ける際には、注意をしっかりと向けさせてから行うようにする。					
E 児 4 年 は ば た き		教育的ニース 相手に失礼のないように簡単な会話の受け答えができる。 身の周りの物を使って、自分で楽しく表現、工作をすることができる。 自分のお金や、貴重品などを大切に扱うことができる。				
		単元の目標 見本や作り方カードを見ながら、身の周りの物を利用した簡単な画材などでカレンダーの絵を描き上げることができる。 買い物の時のお店の人や買い物客とのやりとりを、実際に自分で行うことができる。 カレンダーを介したお金のやりとりを通して、簡単な売買の仕方を理解することができる。				
		関心・意欲・態度	工作の技能	安全面	国語に関連すること	算数に関連すること
	・ものづくりや絵に表す活動に対して、意欲的に取り組むことができる。周りの友だちや先生方とかかわりをもつことについては、不安があり、慎重な様子が見られる。	・手先を使う細かい作業には時間がかかる。はさみを使って決められた形に切ったり、決められた場所にのりではったり、セロハンテープで強くとめたりする基本的な作業も支援があればできる。	・危険な面のある道具や材料等に対して、注意深く取り扱おうとする。しかし、早くしようと慌てているときなどには、注意不足になることもあるので、十分な注意が必要である。	・周りの友だちや先生方に尋ねられると、自分の状況や考えを簡単に話すことができる。しかし、会話のやりとりをする中で、慣れないこともあって、とまどってしまう面もあり、繰り返して体験することが必要である。	・問題となる場面で、加減の意味を理解して、立式し、電卓を使って、答えを正しく求めることができる。 1000までの数の大小も良く理解している。	

WISC- の検査結果分析と支援の方向性

いつも使う物、よく見る物については、内容を理解して、自信をもって取り組むことができる。

できるだけ身近なもの、よく使う物を材料として準備し、活動に生かせるようにする。

絵を見て内容を推理することは得意であるが、その内容が定着するのはなかなか難しい面がある。

学習内容を写真や図で説明し、その内容を掲示しておくことで、見通しをもちやすくする。

手順をおって考えることを苦手としている。

活動全体の見通しを示し、その上で現在の位置がどこなのかをはっきりと示しておくことで、活動に対する不安を無くし、意欲的に取り組むことができるようにする。

3 指導に当たって

本単元の指導に当たっては、子ども一人一人が分かりやすく、「学び」を生かしやすい学習指導を展開するために、以下の点に留意して指導していく。

研究の視点1 分かりやすく、「学び」を生かしやすい授業づくり

- 単元マップを作成することで、単元全体の学習の進め方や、今何を学習しているのかを視覚的に理解し、見通しをもつことができるようにする。また単元マップだけでなく、これまでの活動の写真や、ワークシートのコピー、使った資料などを学習した順番に並べ、掲示していくようにすることで、これまでの学習の経過を子ども自身が振り返り、活用することができるようにする。なお、その際、活動内容が分かるような短い見出しを付け、「学び」を生かすことができるように工夫する。
- カレンダーづくりの際に取り組んだ表現方法を生かして、その後の活動でお店づくりの看板やのぼり、ポスターなどを描くようにする。またカレンダーを売り買いする活動では、一緒に活動する相手を最初にクラスで3回行い、その後学校職員を相手に行うようにする。生かすようにして学習を進めていくことができるようにする。また、その際、特に「学び」を生かしてほしい内容については、板書左の「学び」の振り返りの場に提示し、見出しを付けながら振り返るようにする。そして学習中も生かしていくことができるように言葉掛けを行うようにする。
- カレンダーを売り買いする活動で、店員とお客に分かれてそれぞれ練習をする際に、活動の様子をVTRで撮影し、頑張ったところを実際に見せながら称賛したり、子ども自身が声の大きさや表情、受け答えの正確さなどのよいところをよりはっきりと意識したりできるようにする。また、活動中の画像を短い文章も添え、視点をはっきりと示して子どもたちに見せることにより、これまでの「学び」を振り返らせることができるようにする。

研究の視点2 「学び」を生かすための家庭や交流学級との連携づくり

- 「連携用単元シート」を作成し、保護者に配布する。その内容については、単元の指導計画を簡単に示した上で、「個別の指導計画」の目標と学習内容の関連性を分かりやすく表すようにする。また、「夢を語る会」での話し合いの内容を生かし、学習内容と将来の生活との関連性を具体的に表記するようにする。また、学習活動の様子を撮影したVTRも保護者に配布し、子どもたちの頑張りや変容を実際に確かめてもらえるようにする。このように教育的ニーズとのかかわりや将来の生活とのかかわりを明らかにし、VTRも活用しながら学習内容への理解を促していくことで、保護者の協力がより得られやすくなり、表現活動を家庭で取り組んだり、買い物をするときの取組などの働き掛けがより多く具体的に行われようになると考える。それができるようにし、子ども自身が学校、家庭の両方で「学び」を生かすことができるようにする。
- 意図的に交流学級の子もたちとの活動を位置づけ、活動の中に一緒に表現活動を行ったり、カレンダーを売り買いする活動に参加してもらったりなど、人とのつながりを感じられるようにするとともに、より成就感や達成感を感じることができるようにする。

4 指導計画（全20時間）

指導のねらいと主な学習内容		家庭・在籍校との連携
次	時間	目 標
1次	1	<p>【家庭】 親子で表現活動を楽しむことができる。</p> <p>【交流学級】 交流学級の子もたちと一緒に、表現活動を楽しむことができる。</p>
		<p>連 携</p> <p>【家庭】 連携用単元シートを渡して、単元の流れや目標について共通理解する。</p>

2次	6	<p>教師の紹介する方法や道具を自由に使って、表現活動に主体的に取り組むことができる。</p> <p>【活動内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 準備した表現方法や道具を提示し、教師が実際にやってみせる。 2 教師と一緒に表現活動に取り組む。 3 ここまでを何回か繰り返して、色々な表現方法を紹介する。 3 これまでの「学び」を生かして、方法や道具を決めて、自分の担当する月の絵を表現し、完成させる。
	1	<p>「できあがったカレンダーをみんなで見て、頑張ったことをお話ししよう。」</p> <p>【指導のねらい】</p> <p>写真やVTRを基に活動を振り返ることで、楽しかったことや自分にできたことを発表することができる。</p> <p>【活動内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 できあがった作品、それまでに取り組んだ作品、活動の様子の写真、VTRなどを使って、学習を振り返る。 2 自分の気持ちや友だちの作品への簡単な感想を、教師と一緒に考え、発表する。 3 お店を開くというこれからの学習について、考える。
3次	5	<p>「カレンダーのお店「あすはば屋」を開こう」</p> <p>【指導のねらい】</p> <p>教師が準備したお店の外装を見て、店に対するイメージをふくらませ、お店に必要な看板やポスターなどをつくり上げることができる。</p> <p>【活動内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前時までの活動を振り返り、カレンダーのお店を開くことを確認する。 2 教師の準備したカレンダーのお店や身の回りのお店の様子を見て、自分たちの作りたいお店を考える。 3 これまでに取り組んだ方法を振り返り、自分なりの方法で、お店に必要な物や飾りなどをつくる。 4 実際にお店に飾ったり並べたりする。
	3 本時 (2/3)	<p>「つくったお店で、お店屋さんごっこをしよう。」(本時)</p> <p>【指導のねらい】</p> <p>お店屋さんごっこを通して、買い物客とお店の人の簡単な会話のやりとりや、お金の計算をすることができる。</p> <p>【活動内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前時までの活動を振り返り、めあてを確認する。 2 自分の役割の仕方について、教師と一緒に確かめる。 3 実際に、はばたき学級の子どもが店員に、あすなる学級の子どもたちはお客になって、お店屋さんごっこをする。 4 学習を振り返り、次時の学習について考える。
	3	<p>「学校であすはば屋を開いて、カレンダーを売ろう。」</p> <p>【指導のねらい】</p> <p>これまでの学習を生かして、学校職員を対象に校内でカレンダー販売を行い、実際にお客との簡単なやりとりや、お金の計算をすることができる。</p> <p>【活動内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 これまでの学習を振り返る。 2 実際に店員になって、客になって来てくれる学校職員を相手に、カレンダー販売を行う。 3 学習を振り返り、感想をまとめ、これからの学習について考える。
		<p>フェスタ山下(12月 7日)</p>
4次	1	<p>「楽しかったことを発表しよう。」</p> <p>【指導のねらい】</p> <p>写真やVTRを基に活動を振り返ることで、楽しかったことや自分にできたことを発表することができる。</p> <p>【活動内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 活動中の写真、VTRなどを使って、学習を振り返る。 2 簡単な感想を、教師と一緒に考え、発表する。 3 学校、家庭でのこれからの活用について、思いを広げる。

子どもが好んだ表現方法や道具を家庭用にも準備して、休みの日など一緒に表現活動をすることができるようにする。

【交流学級】

子どもの担当が決まっていない月の絵の枠を準備して、交流学級の子どもたちと一緒に休み時間に描くことができるようにする。

目 標

【家庭】

実際に買い物に行って、自分で合計金額を決めて、正しくお金を渡すことができる。

【学校・交流学級】

「お店屋さんごっこ」に参加した人と楽しく活動することができる。

連 携

学校での学習内容について詳しく知らせ、買い物の際に、子どもがお金の計算に実際に取り組むことができるようにする。

教師が協力を呼び掛け、実際にお店に買い物に来てもらえるようにする。また、短く簡単なアンケート用紙を準備し、子どもたちに感想が伝わるようにする。

5 本 時 (はばたき学級) (1 5 / 2 0)

(1) 目 標

楽しみながら，友達と一緒にお店屋さんごっこをすることができる。
 「カレンダー 冊で 円です」，「それでは，カレンダーをどうぞ」の代金を教える言葉と，
 品物を渡す言葉を相手に伝えることができる。

個人 目 標	D 児 (4 年)	買い物客と会話のやりとりをヒントカードなしで行うことができる。
	E 児 (4 年)	ヒントカードも活用しながら，買い物客と会話のやりとりをすることができる。

(2) 展 開

過程時間	主 な 学 習 活 動	教 師 の 指 導
(分) つか む (4)	1 前時までの学習を振り返る。 2 学習計画を確認する。 3 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 金がくとカレンダーをわたす言葉を正しく伝えて，「あすはば屋店員のぼうし」をもらおう。 (1) めあてを言葉に出して読む。 (2) めあてをワークシートに書き写す。 </div>	前時の写真やVTRを見て，前時に頑張ったことを振り返り，称賛することで，本時への意欲を高めることができるようにする。 単元マップ上で，本時の学習内容の部分を朱枠で囲んだり，前時，本時，次時のつながりについて確認したりすることで，活動の見通しをもつことができるようにする。 E 児については，写真と簡単な文を使って，活動の流れを確認できるようにする。紹介する写真は，内容が一目で分かるように絞り込んだものにし，言葉と合わせて理解しやすいように工夫する。
み と お す (10)	4 学習の進め方を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> お客さんが入ってきてから (1) あいさつをする。 (2) お客様の注文を聞き，計算して，代金を伝える。 (3) お金を受け取って，計算し，言葉を掛けながら品物を渡す。 (4) あいさつをする。 (5) 「あすはば屋ノート」に記録する。 </div>	「あいさつ」，「注文を聞くこと」，「代金を伝えること」，「品物を渡す言葉」については，簡単な例文を準備し，ワークシート，黒板の両方で確認できるようにしておくことで，活動への見通しをもたせ，自信をもって活動することができるようにする。 D 児については，ワークシートに売った数と売上金額を記録する欄を設け，金銭のやりとりを記録する。その際，記録の付け方で活動が滞りそうなときは，教師から記入の仕方をやって見せながら具体的に示し，活動へ自信を持って取り組むことができるようにする。
か つ ど う す る (24)	5 実際に店員，客のやりとりについて教師も交えて，交代で練習する。 (1) 練習をする。 (2) VTRを見て，練習の様子を振り返る。 (3) 振り返ったことを基に，もう一度練習をする。 6 あすなるの友達を相手に，店員役でお店屋さんごっこをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 40%;"> ヒントカードを見ながら言えたよ。次は見ないで言ってみよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 40%;"> あれ，この時はどう言えばよかったかな。ヒントカードで見よう。 </div> </div>  </div>	「あいさつ」，「代金を伝える言葉」，「品物を渡す言葉」を言うことができたかについてであることを板書し，伝えることで，意識して取り組むことができるようにする。また振り返るとき，できていたところは板書に を付けていくことで，次の練習に生かすことができるようにする。
ふ り か え る (7)	7 本時の学習について振り返る。 8 次時の学習について知る。	D 児，E 児ともに，VTRで振り返るときの主なポイントは，「あいさつ」，「代金を伝える言葉」，「品物を渡す言葉」を言うことができたかについてであることを板書し，伝えることで，意識して取り組むことができるようにする。また振り返るとき，できていたところは板書に を付けていくことで，次の練習に生かすことができるようにする。 称賛しながら「あすはば屋店員の帽子」を渡すようにし，達成感を味わわせるようにする。また，「あすはば屋店員バッジ」を紹介し，次時への簡単な見通しをもつことと，次時に対する意欲を高めることができるようにする。

5 本 時 (あすなる学級)(1 5 / 2 0)

(1) 目 標

友達との関わりを楽しみながらお店屋さんごっこを楽しむことができる。
 買い物をするときの手順を知り、手順通りに買い物をして、店員に「ありがとうございました。」とすることができる。

個人目標	A 児 (3 年)	レジで商品を出して、代金を100円硬貨で支払うとともに、受け取った商品をバッグに入れて持ち帰ることができる。
	B 児 (3 年)	レジで商品を出して、代金を100円硬貨で支払うとともに、「ありがとうございました。」とすることができる。
	C 児 (3 年)	レジで商品を出して、代金を100円硬貨で支払うとともに、支払った後に財布の口をしっかりと閉めることができる。

(2) 展 開

過程時間	主 な 学 習 活 動	教 師 の 指 導
(分) つかむ (4)	1 前時までの学習を振り返る。 2 学習計画を確認する。 3 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> かいものめいじんになって、「かいものめいじんバッグ」をもらおう。 (1) めあてを読む。 (2) めあてをワークシートに書き写す。 </div>	前時の活動のVTRを見る際は、前時のめあてや気を付けたことを確認してから見ることで、目的をもって振り返ることができるようにする。 行動目標が達成できたときに得ることができる「かいものめいじんバッグ」を見せることで、何をするのがはっきり分かるようにする。 ワークシートは、子どもの書くスピードなどの実態を考えて、個に応じたものを作成することで、書くことが苦手な子どもに配慮する。
みとおす (10)	4 「買い物名人」になる手順を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> (1) 商品を選び、レジに持っていく。 (2) レジで商品を出し、代金を聞く。 (3) 代金を100円玉で支払う。 (4) 「ありがとうございました。」と言う。 (5) 品物を持ち帰る。 </div>	A 児、B 児、C 児については、手順を一つずつ掲示し手順ごとの写真も掲示することで、何ができればよいのかを一目で分かるようにするとともに、行う活動を赤の枠で囲むことで、すべきことが分かるようにする。 カレンダーの値段は200円に設定し、お金は全て100円硬貨で準備をすることで、店員に言われた金額を100円硬貨で支払うことができるようにする。
かつどうする (24)	5 買い物の仕方について確認して、教師と一緒に練習する。 (1) 買い物の仕方を確認して練習する。 (2) VTRで活動の様子を振り返る。 (3) 振り返ったことをもとにもう一度練習をする。	A 児、B 児については、お金やバッグの実物を見せて手順を確認し、実際の動きをさせたり、言葉を言わせたりすることで、手順が分かるようにする。さらに、動きが分かる手順の写真を掲示して視覚的な情報を残すことで、いつでも確認することができるようにする。 C 児については、財布の口を閉める写真を1枚で分かるように提示することで、すべき行動が分かるようにする。 VTRで練習の様子を振り返る際は次のポイントを明確にして見るようにさせる。また、その際にポイントごとの1枚写真に短い言葉をつけることで、意識できるようにする。
ふりかえる (7)	6 練習したことを基に「あすはば屋」で買い物をする。 <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-right: 10px;"> 「ありがとうございました。」が上手に言えたぞ。 </div>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-left: 10px;"> カレンダーを買うことができたぞ。これで買い物名人だ。 </div> </div>	A 児 持ち帰る時にバッグに入れられたか。 B 児 お礼が言えたか。 C 児 財布の口を閉めることができたか。 買い物名人になる手順については、子どもが移動する際にはばたき学級に持って行くことで、視覚的情報を常に残し、学習したことを確認し見通しをもつことができるようにする。
	7 本時の学習について振り返る。 8 次時の学習について知る。	単元マップを見ながら本時の学習を振り返るとともに、目標が達成できたらその点を具体的にほめながら「買い物名人バッグ」を渡す。また、次時のめあてを達成したらもらうことができる「買い物名人手帳」を提示することで、意欲をもって次時に臨むことができるようにする。